

『苺飴には毒がある』（砂村 かいり／著）

八戸市立湊中学校 2年 照井 璃子

「友情はきれいなだけじゃない。」この本のすべてが詰まった一文が、私にはとても魅力的に見えた。

主人公の寿美子は、幼なじみのれいちゃんの変化をきっかけに友情に疑問を持つようになった。私も、中学校に入った頃は、人間関係で悩んでいたのだから、彼女の気持ちがよくわかる。「友達なら、いい所も悪い所も、すべてを受け入れなければダメなのかな」という思いが、みんなと深く関わるほどに大きくなっていった。そんなとき、母がこの本を紹介してくれた。悩みが大きくなっていき、迷い続ける寿美子が、私と重なって見えた。

この本は、人間関係に悩むすべての人に読んでいただきたい本である。

『苺飴には毒がある』（砂村 かいり／著）

青森市立浪岡中学校 2年 常田 彩友

友達。その関係が崩れるのを、何度も経験した。依存、上下、期待、綴られるすべてが古傷をチクチクと刺激し、主人公の寿美子と同じような経験が次々とフラッシュバックする。寿美子の幼馴染で、容姿端麗なれいちゃんの吐く毒は、どこかで聞いた覚えがあった。二人の歪で痛々しい関係には、身に覚えがある。友人関係で、再び違和感を感じ始めたときに、この本に出会った。「誰かのことを憎みきらなくていいし、無理に許しきらなくてもいい。自分の感情を頑張って加工しなくていい。」その言葉に、確かに救われた自分がある。読んだ後には、いつもよりも肩の力を抜いて友達に接することができるようになる、そんな一冊だ。

『余命一年と宣言された僕が、余命半年の君と出会った話』（森田 碧／著）

県立三本木高校附属中学校 2年 梅村 花心

夏休みにコロナウイルスに感染した。熱が1週間程続き、部活も友達と遊ぶことも出来ず、自由な時間を奪われてしまった。そんな時、この本に出会った。読んでいてとても切ない想いや、相手を一途に思う気持ち、皆の気遣いの優しさや、前向きで淡々と過ごす2人に生きることを意味を感じ涙が出た。どうか天国で幸せになっていますように。

この本の中に、1秒、1分、1時間でも長く生きたいという言葉がある。今、私は隔離生活を終え、当たり前前の生活をしていることの幸せを感じている。今を大切な仲間と共に精一杯生きようと思う。だから、この本を私の大切な仲間や同年代の人たちにも読んでほしい。